



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月1日

上場会社名 セントラル硝子株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4044 URL <http://www.cgco.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 清水 正
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理室長 (氏名) 金井 哲男 TEL 03-3259-7062
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	125,096	△17.6	12,497	211.0	14,831	111.0	21,737	414.3
2022年3月期第3四半期	151,757	10.8	4,018	180.1	7,028	417.9	4,226	-

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 19,009百万円 (161.4%) 2022年3月期第3四半期 7,273百万円 (57.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	570.57	-
2022年3月期第3四半期	104.44	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	243,289	91,622	35.6
2022年3月期	290,696	130,063	43.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 86,680百万円 2022年3月期 126,085百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	37.50	-	37.50	75.00
2023年3月期	-	37.50	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	-	-	77.50	115.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	168,000	△18.5	13,000	79.0	16,500	38.2	29,000	-	834.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 — 、 除外 2社 （社名）カーレックスガラスアメリカ, LLC、
カーレックスガラスルクセンブルク S. A.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	42,975,995株	2022年3月期	42,975,995株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	18,195,639株	2022年3月期	2,508,151株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	38,097,797株	2022年3月期3Q	40,468,389株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する防疫と経済活動との両立が進み、景気の持ち直しの動きが見られるものの、為替の急激な変動や原燃材料価格の高騰、消費者物価上昇が続いており、依然として厳しい状況が継続しております。

世界経済は、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化及びロシアに対する各国政府の経済制裁の影響による原燃材料価格の高騰、欧米各国のインフレ圧力に対する金融引き締めによる景気悪化予測、中国のゼロコロナ政策による経済成長の鈍化と解除後の急激な感染拡大の経済影響など、先行きは非常に不透明な状況が続いております。

このような経済環境の下、当社グループは積極的な販売活動を展開いたしましたが、5月7日に株式譲渡を完了しました欧米自動車ガラス事業会社2社が、第1四半期連結会計期間の期首より連結対象から除外となった影響により、当第3四半期連結累計期間の売上高は125,096百万円と、前年同期比17.6%の減少となりました。

損益面につきましては、経営全般にわたる業務の効率化・合理化施策を推進し、加えて為替が円安に推移した影響もあり、経常利益は前年同期比7,802百万円増加の14,831百万円となり、当期に政策保有株式の売却を進めたため親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比17,510百万円増加の21,737百万円となりました。

尚、セグメント別の概況につきまして、「化成品事業」を主に化学品、ファインケミカル、肥料に区分して説明していましたが、従前の区分での売上規模が変動してきたため、第1四半期連結会計期間より、化学品にファインケミカルに区分していた精密化学品を合わせた素材化学品と、精密化学品以外のファインケミカルを医療化学品、電子材料、エネルギー材料に区分し、肥料を加えた区分に変更しております。この変更は、概況をより適切にご説明することを目的としており、報告セグメントの事業としての影響はございません。

セグメント別の概況

(ガラス事業)

建築用ガラスにつきましては、建築需要は前年同期並に推移しましたが、前年に実施しました構造改善の取り組みとして不採算取引等の見直し、販売・生産拠点の適正規模への縮小、集約を進めた事により、売上高は前年同期を下回りました。

自動車用ガラスにつきましては、国内は前年同期は半導体等の部品供給不足及び新型コロナウイルス感染症の流行による各自動車メーカーの生産調整の影響を受けていましたが、当期は第2四半期以降の部品不足改善に伴う各自動車メーカーの生産数量の増加に加え、原燃材料価格の高騰に対応し、製品価格の改定を実施したことから、売上高は前年同期を上回りました。海外につきましては、株式譲渡により欧米事業会社2社が当期期首より連結対象から除外となり、海外に区分する売上はなくなりました。

ガラス繊維につきましては、自動車分野において各自動車メーカーの減産の緩和や、原燃材料価格の高騰に対応し、製品価格の改定を実施したことから、売上高は前年同期を上回りました。

以上、ガラス事業の売上高は40,207百万円（前年同期比51.8%減）となり、損益につきましては1,763百万円の営業利益（前年同期比3,621百万円の改善）となりました。

(化成品事業)

素材化学品につきましては、ハイドロフルオロオレフィン製品における次世代発泡剤の販売が好調に推移するとともに、原燃材料価格の高騰に対応し、ハイドロフルオロオレフィン、機能材料、農薬関連各製品の製品価格の改定を実施したことから、売上高は前年同期を上回りました。

医療化学品につきましては、依然新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、医薬関連製品の販売数量に回復の兆しが見え、円安により輸出価格が上昇したことから、売上高は前年同期を上回りました。

電子材料につきましては、半導体向け特殊ガス製品の売上高は前年並に推移しましたが、前年の一部ガス製品の半導体用途以外での特需の反動と、レジスト材料などでユーザーの在庫調整があり、売上高は前年同期を下回りました。

エネルギー材料につきましては、EV市場の成長が続いており、リチウムイオン電池用電解液製品の販売が好調に推移し、原燃材料価格の高騰に対応し、製品価格の改定も実施したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

肥料につきましては、一部品目で販売減がございましたが、原燃材料価格の高騰に対応し、製品価格の改定を実施したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

以上、化成品事業の売上高は84,888百万円（前年同期比24.1%増）となり、損益につきましては10,733百万円の営業利益（前年同期比4,856百万円の増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ、株式譲渡により欧米自動車ガラス事業会社2社が第1四半期連結会計期間の期首より連結除外となった影響などで、棚卸資産が7,989百万円、有形固定資産が29,287百万円減少したほか、政策保有株式の売却などで投資有価証券が11,226百万円減少したことなどにより、47,406百万円減少し243,289百万円となりました。

負債は借入の増加などで有利子負債が45,836百万円増加した一方、関係会社株式譲渡損失引当金が48,404百万円減少したことなどにより8,965百万円減少し151,667百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が18,754百万円、為替換算調整勘定が2,983百万円増加した一方、自己株式の公開買付けなどで54,378百万円、政策保有株式の売却などでその他有価証券評価差額金が6,407百万円それぞれ減少したことなどにより38,440百万円減少し、91,622百万円となりました。また自己資本比率は7.8%減少し、35.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の実績を踏まえ、通期の業績を想定した前提条件により予想しました結果、2022年11月1日に公表いたしました通期の業績予想からは修正すべき大幅な乖離がないため、通期の業績予想は修正しておりません。

当社を取り巻く事業環境につきましては、依然として厳しい状況が続いており、先行きの不透明感が強く、市場環境、為替動向、政策保有株式を売却する株価など、この連結業績予想は当社が現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績等は様々な要因によりこれらの予想とは異なる場合があります。今後の状況の変化に伴う影響を慎重に見極めながら適宜見直しを実施し、大幅な乖離が生じる場合には適切に情報開示していくこととしております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,216	28,507
受取手形、売掛金及び契約資産	49,000	49,332
商品及び製品	32,518	27,229
仕掛品	3,951	3,100
原材料及び貯蔵品	21,277	19,428
その他	6,124	5,122
貸倒引当金	△185	△163
流動資産合計	140,903	132,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	28,738	21,119
機械装置及び運搬具（純額）	39,894	23,393
土地	23,956	20,874
建設仮勘定	4,521	2,446
その他（純額）	3,941	3,930
有形固定資産合計	101,052	71,765
無形固定資産		
その他	1,317	999
無形固定資産合計	1,317	999
投資その他の資産		
投資有価証券	38,617	27,391
その他	8,925	10,712
貸倒引当金	△120	△136
投資その他の資産合計	47,423	37,967
固定資産合計	149,792	110,732
資産合計	290,696	243,289

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,105	23,235
短期借入金	7,649	52,999
未払法人税等	2,007	1,288
契約負債	2,422	1,570
賞与引当金	1,265	365
事業構造改善引当金	2,617	1,142
関係会社株式譲渡損失引当金	48,404	—
その他	26,921	29,490
流動負債合計	113,395	110,092
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	17,198	12,599
特別修繕引当金	3,826	2,304
環境対策引当金	38	—
退職給付に係る負債	5,388	5,367
その他	785	1,302
固定負債合計	47,237	41,574
負債合計	160,632	151,667
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,168	18,168
資本剰余金	8,109	8,109
利益剰余金	88,465	107,220
自己株式	△6,402	△60,780
株主資本合計	108,340	72,717
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,725	7,317
繰延ヘッジ損益	286	47
為替換算調整勘定	2,863	5,847
退職給付に係る調整累計額	868	749
その他の包括利益累計額合計	17,744	13,962
非支配株主持分	3,977	4,942
純資産合計	130,063	91,622
負債純資産合計	290,696	243,289

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	151,757	125,096
売上原価	121,641	93,162
売上総利益	30,116	31,934
販売費及び一般管理費	26,097	19,436
営業利益	4,018	12,497
営業外収益		
受取利息	20	188
受取配当金	755	616
持分法による投資利益	643	969
為替差益	221	1,007
その他	2,713	1,697
営業外収益合計	4,354	4,479
営業外費用		
支払利息	247	221
アドバイザー等費用	—	458
その他	1,097	1,465
営業外費用合計	1,344	2,145
経常利益	7,028	14,831
特別利益		
固定資産売却益	512	3,059
投資有価証券売却益	128	8,747
事業譲渡益	326	—
特別利益合計	968	11,807
特別損失		
固定資産売却損	—	65
投資有価証券売却損	—	502
投資有価証券評価損	11	—
事業構造改善費用	1,411	1,864
関係会社清算損	—	0
特別損失合計	1,423	2,432
税金等調整前四半期純利益	6,573	24,206
法人税等	1,915	1,718
四半期純利益	4,658	22,487
非支配株主に帰属する四半期純利益	431	750
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,226	21,737

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	4,658	22,487
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,732	△6,409
繰延ヘッジ損益	△123	△238
為替換算調整勘定	4,044	2,366
退職給付に係る調整額	△18	△118
持分法適用会社に対する持分相当額	444	922
その他の包括利益合計	2,614	△3,478
四半期包括利益	7,273	19,009
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,701	17,955
非支配株主に係る四半期包括利益	571	1,053

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年5月11日開催の取締役会決議に基づき、2022年5月12日から2022年9月20日までの期間に自己株式1,401,000株の取得を行いました。また、2022年9月20日開催の取締役会において、会社法第459条第1項の規定による当社定款の規定及び同法第156条第1項の規定に基づき、自己株式の取得及びその具体的な取得方法として自己株式の公開買付けを行うことを決議し、2022年11月21日付で14,285,653株を取得しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、単元未満株買い取りによる増加を含め、自己株式が54,378百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が60,780百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

1 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	83,370	68,387	151,757	—	151,757
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9	742	751	△751	—
計	83,379	69,130	152,509	△751	151,757
セグメント利益又は損失(△) (営業利益)	△1,858	5,877	4,018	—	4,018

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	ガラス事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	40,207	84,888	125,096	—	125,096
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	744	744	△744	—
計	40,207	85,633	125,840	△744	125,096
セグメント利益(営業利益)	1,763	10,733	12,497	—	12,497

(注) 調整額は、セグメント間取引消去であります。